

郷土摂津 いにしえ通信

第37号 平成13年5月1日

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部生涯学習課

〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

TEL (06) 6383-1111 TEL (0726) 38-0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>

第2回 5月
苗代づくりと本田づくり

わがまち ちょっと昔の生活

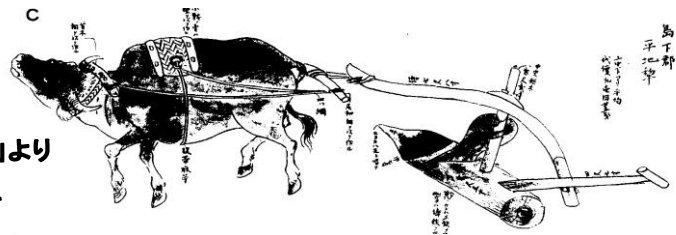
鍬（くわ）や鋤（すき）などで耕した後に水を入れて、水もれしないように畦を塗り、さらに鍬などで土をならします。畝は短冊型に作ることがほとんどでした。最後に、棒などで苗代を平らにしてから、天長節（4月29日）から八十八夜（5月初め）にかけて耨（もみ）をまきました。耨は、あらかじめ塩水に漬けて選別して発芽しやすくさせていました。

そして、本田づくりが始まります。牛を使ってカラスキで耕します。田植が近づくと、ふたたび水を入れて畦を塗り鍬で土をならします。さらに苗代ごてやえぶりなどで田の面を平らにし、田植がしやすいように準備しました。

カラスキ

「摂津国各郡農具略図」より

明治のカラスキ



牛に引かせて田畑を耕す道具で、動力耕耘機の普及する1960年代まで広く使われていました。古くは朝鮮半島や中国から伝来したのでカラスキ（唐鋤）と呼ばれたようです。

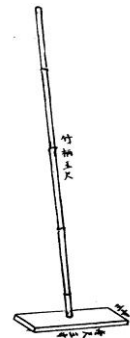
苗代ごて

苗代の表面をならす道具です。



えぶり

「摂津国各郡農具略図」で苗代ごてに代りならしに使う道具として見られます。





投稿コーナー

講座や展示のご案内、活動報告など多彩な文化財情報を毎月お知らせします。

また、このページでは皆様の投稿を募集しています。

泉州岸和田
いにしへの旅に参加して
千里丘6丁目 S.T

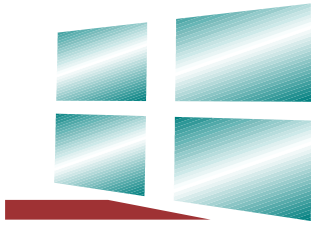
文化財愛護会主催の「泉州岸和田いにしへの旅」のバスツアーがあるのを、市広報で知り、さっそく申し込みました。岸和田市の名前は知っていても、行ったことがないので楽しみにしていました。

3月22日は天気が良く行楽日和でした。バスが岸和田に着くまで、バスの中で岸和田の話を聞きました。有名な方が岸和田出身であること。市制がひかれたのが、大阪市、堺市について3番目であること。大阪湾から葛城山までである細長い形をしていること。岸と呼ばれてる地域に和田氏という豪族が住んでいたのが岸和田という地名がついたということ。知らないことがたくさんあり勉強になりました。

最初は岸和田城、この岸和田城は昭和29年に復元されたそうです。城の中は臨時休館日になっており入れませんでした。城のまわりは桜の名所らしいですが、つぼみで少しはやかったようです。城志神社、土塀のある町並を見学しながら、昼食予定の五風荘に行きました。この五風荘は庭園が有名らしく、歩いていて落ち着く日本庭園でした。昼食場所も庭園が眺められるりっぱな部屋でした。そして食事も大変おいしく、岸和田の思い出として、いつまでも脳裏に残っていることと思います。

昼食後はだんじり会館へ行き、郷土史研究家の方に説明を受けました。そして、紀州街道では、地元自治会長の特別の計らいで、現在使用されているだんじりを見せていただきました。そして天性寺に歩いていきました。

たくさん歩きましたが、楽しい一日でした。また、機会があったら参加したいと思います。



意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

鳥飼（養）の歴史

京阪神石油パイプライン計画反対運動

昭和47年（1973年）4月14日、大阪通商産業省局長から、京阪神石油パイプラインの計画資料が摂津市に送付されてきました。その計画は、大阪湾の堺市第七埋立地の臨海製油所で精製された石油製品（軽油・灯油・ガソリンなど）を地下埋設の鋼管で、京都市まで輸送するものでした。途中の本市鳥飼上に、8基総容量76,000キロリットルの貯蔵タンクを有する二次配送ターミナルを設置する内容でした。

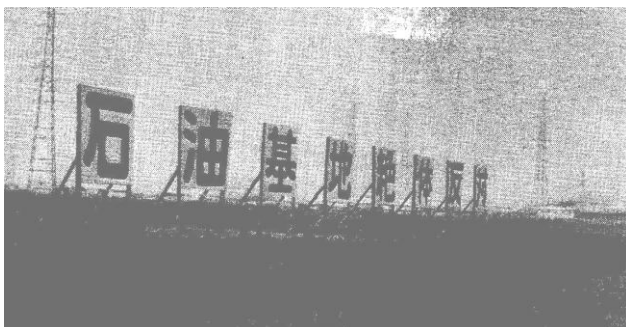
この計画を摂津市は、市民生活にとって極めて危険な計画であり、市の発展にとっても、大きな阻害要因となる理由で、5月26日に大阪通商産業省局長に計画変更を求める意見書を提出しました。

この計画を知った鳥飼上地域の住民68名は市議会に対し、「もしこの計画が実現したら、われわれは先祖伝来の土地を離れねばならず、すでにこの計画を知っただけで、恐怖感による人心の動揺は筆舌に尽しがたいものがあるので、市議会も反対の決議をしてほしい」という趣旨の請願書を提出しました。そして、配送ターミナルの候補地にされている現場近くや沿道に、「石油基地絶対反対」と書いた高さ4メートルの立看板を立てて、断固反対の意志を示しました。

市議会では満場一致で請願書を採択し、反対運動は、市・市議会・地元住民の三者が相呼応して、強力な運動へと発展していきました。

強力な地元の反対運動によって、大阪通商産業省局長は計画を事実上打ち切りました。

「摂津市史より」 担当 （茗荷）



←鳥飼上の住民が立てた「石油基地絶対反対」の看板

第2回

埋もれた
摂津市の歴史

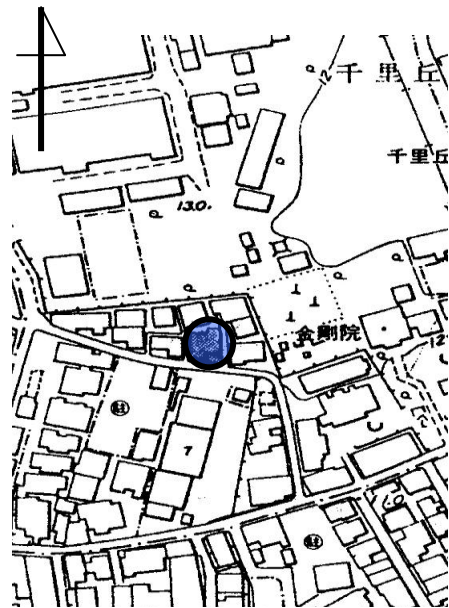
発掘調査で明らかになる摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介します。

平成9年度
蜂前寺跡
1次調査

- 【所 在】 千里丘3丁目10-6
- 【調査期間】 平成9年6月3日から7日まで
- 【時 代】 古墳時代後期から江戸時代
- 【遺 構】 溝状遺構2、土坑4他
- 【遺 物】 須恵器甕、須恵器短頸壺、土師器
黒色土器、瓦、寛永通宝、鉄鏃他

蜂前寺跡について 平成9年6月3日から千里丘3丁目で発掘調査が実施されました。調査場所は周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）蜂前寺跡のなかに位置します。蜂前寺跡は千里丘陵から派生した中位段丘上に立地しています。蜂前寺は寺伝によると天平年間に僧行基が薬師如来を刻み本尊とし、放光山味舌寺と名付けたとあります。その後、鎌倉時代に至り、賊徒の蜂起にさいし蜂の群れが出現し官軍が勝利を得たという「蜂塚」の伝承により、蜂熊山蜂前寺金剛院と改名したとあります。また、現在の金剛院には護摩堂の本尊として不動明王立像があります。寄木造りの秀作で平安時代後期の作品とされています。本像は大阪府指定有形文化財に指定されています。

基本層序 このときの調査では、現状地盤から約38cm掘削し、整地層を除去したレベルで赤褐色粘質土が調査区全域に展開していました。山の赤土のようですが、この堆積から土師器の碎片が含まれていましたので地山とは判断されませんでした。下層は黄橙色砂質土で上層とは異なり土器等を含まず極めて精緻で地山の可能性があります。（つづく） 担当 （伊部）



調査地点位置図